

令和5年度第8回 感染症発生動向調査協議会

令和5年11月15日

月番：大西 秀典

1 前月の感染症発生動向について（2023年第40週～43週・10月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は20例で、2019年の同期累計報告数345例、前年の同期累計報告数236例、本年の累計報告数が201例となっており岐阜県下においてはCOVID-19流行後の発生減少が継続している。従来通り基本的には高齢者が多いが、10, 20, 30, 40歳台の若年層にも散見され、特に今月は20歳台での発症例が6例と多い。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が11例発生報告があったが、そのうちO157の発生が6件確認された。
- ・ 四類感染症については、E型肝炎が2例、つつが虫病が1例、レジオネラ症が6例報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症が2例、急性脳炎が3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が3例、侵襲性肺炎球菌感染症が2例、百日咳が1例報告されている。

<定点把握対象疾患>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の今月の報告数は1,770例であり、全国推移と同様に岐阜県内でも減少傾向である。
- ・ インフルエンザの定点当たり患者報告数が45.7となっており、一般的な流行期ではない10月であるにも関わらず流行がみられている。
- ・ RSウイルス感染症は県全体での発生数9例、前月比18.8%とほぼ流行は収束している。
- ・ 咽頭結膜熱は県全体で340例の発生があり、前月比298.2%と全国的な推移にやや遅れてはいるが増加傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は県全体で339例の発生があり、前月比189.4%と増加傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎は県全体で449例の発生があり、前月比としては116.6%で概ね横ばいの発生数である。
- ・ 突発性発疹は39例の発生があるが、前月比97.5%で概ね横ばいの発生数である。
- ・ ヘルパンギーナが28例の発生があるが、前月比35.9%と減少傾向である。
- ・ 眼科定点疾患である流行性角結膜炎が県全体で12例の発生があり、前月比133.3%と若干増加傾向である。
- ・ 基幹定点疾患では目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

2 検討すべき課題

(事務局から)

- ・ インフルエンザ患者報告数の増加について（継続）

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 今年度の日本小児感染症学会学術集会（第 55 回）は 2023/11/25-26 に名古屋国際会議場での開催です。

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・ インフルエンザ警報の発表について
- ・ 梅毒の届出に関する県内医療機関向け通知について
- ・ 抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスの継続について
- ・ 抗インフルエンザウイルス薬等の安定供給について

<検討結果>